2014年7月号「vol.49」◎編集：新井絹世　横浜市磯子区丸山2-24-3　◎電話：045-751-5250 ◎FAX：045-761-7451

県議会議員

あらい絹世の 磯っ子レポート

県政をもっと身近に

http://www.araikinuyo.jp

少子化時代迎え質の向上目指す 神奈川県立高校改革の取り組み

世界では20世紀末からグローバル化と情報の進展がぐんと進み、日本ではさらに急激な少子高齢化にも見舞われています。これに連れて社会や教育の在り方も大きく変わってきており、神奈川県でも主要なテーマの教育、特に県立高校の分野で改革を迫られています。

1948年に新制高校制度が発足して以降、県立高校を巡る初めの大きな動きは、第一次ベビーブーム世代が高校入学期を迎えるなど、高校進学志望者がぐんと増えたことへの対応でした。県では1973年から1987年にかけて100校を新設、65校だった県立高校は165校に急増しました。次に社会の流れが量から質の時代に変わったことに合わせて、1998年から2010年まで新しいタイプの高校づくりなど多様化の改革が進められました。県内の高校在籍者は約20万9000人（2013年5月）ですが、このうち県立高校は約12万5000人、市立高校約1万4000人、私立高校約7万人と、143校に上る県立高校の役割は大きなものがあります。全国に先駆けた試みとして2012年入学者からの日本史の必修化も取り入れています。

県内の公立中学卒業者は1988年春の約12万2000人をピークに減少傾向が続き、2013年には約6万9000人となりました。今春には7万0491人に微増しましたが、県の推計では2021年には6万3598人まで減少する見通しです。こうした少子化時代を迎え、高校に限らず神奈川の教育はどうあるべきか。2012年、県では研究・調査組織として有識者による「神奈川の教育を考える調査会」を発足させ、昨夏、報告を受けました。これにのっとり、今年1月にはやはり有識者による県立高校改革推進検討協議会を発足させ、6月に報告を受けました。引き続き「質の向上」を目指す中で、学校の再編を推し進め、障害の有無にかかわらず一緒に学ぶ「インクルーシブ教育」の必要性、不登校の生徒が一時的に入学して単位がもらえる通信高校のサテライト校を各地に作ることなどが提案されています。県は本年度中に新たな改革に向けた基本計画、来年度には実施計画をつくることにしています。

これを前に、県は国からの委託を受け、釜利谷高校と綾瀬西高校の2校で2014年度から2016年度まで「高校におけるインクルーシブ教育」の研究を行うことにし、6月補正予算案に事業費750万円（全額国からの委託金）を盛り込んでいます。

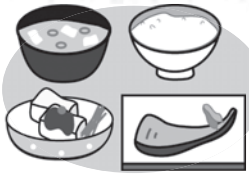
コレが言いたい！

「教育は国家百年の計」と言われます。教育は一人一人の生き方に繋がると共に県や国の将来を左右する重要な課題です。社会情勢・国際情勢が大きく変化する中でその変化に対応する教育を進めていく必要があります。また近代私学発祥の地である神奈川県としては、県立・私立それぞれの特性を生かし生徒が多様な選択を出来る様にしていくべきです。

今月のひと言

食を通じて健康で元気な人を増やすため「かながわ食育フェスタ」が開催されます。展示やゲームに参加しながら食について楽しく学べ、また神奈川県の農産品の即売も行われます。

【日時：7月30日（水）10時から16時まで　横浜赤レンガ倉庫1号館で開催】



磯子 あれ？これ？

はまぎん こども宇宙科学館

昭和59（1984）年5月に「横浜こども科学館」の名でJR洋光台駅近くにオープンし、平成20（2008）年4月からネーミングライツにより「はまぎん こども宇宙科学館」（愛称）としてこどもから高齢者まで連日大勢の来館者で賑わっています。施設内の休憩室やカフェ、ショップも充実し、洋光台まちづくり協議会のメンバーの中の高校生から宇宙に関連したカフェメニューを作ってみてはとの提案が出されました。

同科学館は、今年5月に開館30周年を迎えました。これまでの来館者数は約766万人に上り、開館した年には当時の皇太子同妃両殿下がご来館されました。

現館長は、あの小惑星探査機「はやぶさ」に携わっていた的川泰宣氏で、最近では、宇宙飛行士の山崎直子さんによるトークイベントや世界で初めて小惑星イトカワの微粒子・月の石・地球深部の石の三種同時展示が行われたり、自作ロボットの競技会の開催や地域連携活動の一環として「洋光台サイエンスクラブ」の活動も活発です。

科学館では、「次世代を担うこども達が科学や宇宙の不思議について学習することで将来、人々が快適で平和な生活が送れるように、また新しい発見や創造の“種”となってくれるよう期待している」とのことです。

活動報告

かながわ自民党女性議員局で「子ども・子育て支援新制度」に関する勉強会を行いました。新制度では幼稚園が「幼稚園（施設型給付）」「幼稚園（私学助成）」「新幼保連携型認定こども園」「幼稚園型認定こども園」に体系が変わることから、幼稚園に通う児童が7割を占める本県では現場の混乱を少なくするためにも新制度を利用される保護者の方に分かりやすい説明をしていく必要があります。

松本純衆議院議員・麻生副総理より来年の統一地方選挙に向けて力強い激励を頂きました。

私学保護者交流会総会

あらい絹世 プロフィール

- ●昭和43年3月8日　横浜市磯子区生まれ
- ●横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- ●明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- ●日商岩井㈱ / ㈱メタルワン
- ●自民党かながわ政治大学12期生
- ●平成23年4月　県議会議員初当選
- ●厚生常任委員

あらい絹世に対するご意見・ご感想・ご要望・メッセージをお寄せ下さい・・・・・・・・・・・ FAX 045-761-7451